スマホ連携リダイアラー

Windows 11「スマートフォン連携」用 自動リダイアルアプリ
利用マニュアル

バージョン 1.2.0 ／ 対応 OS: Windows 11（64 ビット）
改訂日: 2026 年 11 月 4 日（v1.2）

目次

1. このアプリでできること
2. 動作環境と事前準備
3. ご利用前の注意事項
4. インストール／アンインストール
5. 初期設定（最初に 1 回だけ）
6. リダイアルの使い方
7. 音声判定の確認と調整
8. 設定項目の一覧
9. 困ったときは
10. ファイルの保存場所

1. このアプリでできること

スマホ連携リダイアラーは、Windows 11 に付属する **スマートフォン連携**（Phone Link）を自動で操作し、指定した電話番号につながるまで最短の間隔でリダイアルを繰り返すアプリです。発信はスマートフォン連携を通じて、連携したスマートフォンの電話回線で行われます。

- **話中（ツー・ツー）**のときは、約 1 秒で検出してすぐに切断・再発信します。
- 回線が混雑して **NTT の自動音声（「ただいま電話が大変混み合っております」など）**が流れたときも、すぐに切断・再発信します。
- **相手が応答した**ら自動で停止し、スマートフォン連携の画面を前面に出して通知音で知らせます。通話はそのまま続けられます。

判定のしくみ

スマートフォン連携の通話音声（PC のスピーカー／ヘッドセットから出る音）をアプリが聞き取り、次のように判定します。

話中音	呼出音	アナウンス	応答
400Hz のトーンが 0.5 秒鳴って 0.5 秒止まる → 再発信	トーンが 1 秒鳴って 2 秒止まる（プルルル）→ 待機	呼出音の前に流れる音声、または登録した音声と一致 → 再発信	呼出音の後の人の声 → 停止して通話を継続

さらに、スマートフォン連携の**「通話を終了」ボタンが画面から消えた**（相手側や回線側で通話が切れた）ことも検知し、すぐに再発信します。

スマートフォン連携の操作方法（自動モード）

アプリを起動すると、**スマートフォン連携を自動で起動**し、スマートフォンと連携できていれば**自動で最小化**します。画面にはこのアプリだけが表示された状態になります。スマートフォン連携は最小化したままで動作し、ボタン位置の記録などの事前設定は不要です。

- 番号の入力と発信は、スマートフォン連携の［通話］画面に直接キー入力を送って行います。入力後に表示された番号を読み取り、正しいことを確かめてから発信します。
- 切断は、通話ウィンドウの「通話終了」ボタンを Windows の **UI オートメーション**（画面部品を名前で探して操作する Windows 標準の仕組み）で押します。

- 発信中に現れる小さな通話ウィンドウは自動で最小化し、相手が応答したら前面に表示します。

この方式は、スマートフォン連携 バージョン 1.26092.119.0（2026 年 11 月時点）で動作を確認しています。処理には Windows 標準の PowerShell を使用します。

登録先（10 件）

よくかける発信先を 10 件まで名前付きで登録し、［発信］ボタン 1 つでリダイアルを開始できます。

2. 動作環境と事前準備

項目	内容
OS	Windows 11 Pro / Home（64 ビット）
スマートフォン連携	スマートフォン（Android または iPhone）と連携済みで、スマートフォン連携の［通話］から**手動で電話をかけられる状態**であること。通話機能には PC とスマートフォンの Bluetooth 接続が必要です。
音声	通話音声が PC のスピーカーまたはヘッドセットから出る状態。**ミュートにはしないでください**（解析できなくなる場合があります）。マイクも必要です。
画面部品	Microsoft Edge WebView2 ランタイム（Windows 11 に標準で入っています）。
PowerShell	Windows PowerShell 5.1（Windows 11 に標準で入っています）。会社の PC などで実行が制限されている場合は、座標クリック方式で動作します。
管理者権限	不要です（ログイン中のユーザーにのみインストールされます）。

事前に確認すること

1. スマートフォン連携を開き、スマートフォンが「接続済み」になっていることを確認します。
2. 左側メニュー（または上部）の［通話］を開き、自分の別の電話などに手動で発信して、PC から声が聞こえ、会話できることを確認します。
3. スマートフォン連携の［設定］で、通話機能が有効になっていることを確認します。

3. ご利用前の注意事項

通話料について

スマートフォン連携の通話は、スマートフォンの**標準の電話機能**（携帯電話会社の音声通話）で発信されます。通話料はご契約の携帯電話会社・料金プランに従います。たとえば楽天モバイルでは、Rakuten Link を使わない発信は 30 秒あたり 22 円の通話料がかかると報じられています。0570（ナビダイヤル）などの有料番号にも発信できますが、通話料にご注意ください。

リダイアル中も PC を使えます（自動モード）

自動モードではマウスやキーボードを動かさないため、リダイアル中も他の作業ができます。ただし、スマートフォン連携は終了しないでください（最小化は問題ありません）。止めたいときはいつでも Ctrl + Alt + S で緊急停止できます。

記録方式・tel: リンクを使う場合

これらの方式ではマウス操作やキー入力を行うことがあるため、リダイアル中はマウスとキーボードに触らず、スマートフォン連携の［通話］画面を表示したままにしてください。

節度あるご利用を

短い間隔での連続発信は、混雑している回線にさらに負荷をかけます。必要な場面に限って使い、「最大発信回数」を設定するなど節度ある利用を心がけてください。携帯電話会社の利用規約にも従ってください。迷惑電話にあたる使い方は絶対にしないでください。

判定は音声の解析に基づきます

判定は通話音声の解析によるもので、100% 正確ではありません。また、スマートフォン連携の画面構成は今後の更新で変わることがあります。初回とスマートフォン連携の更新後は、「5. 初期設定」の自動検出テストで動作を確認してください。

4. インストール／アンインストール

インストール

1. 配布された ZIP ファイルを右クリック →［すべて展開］で展開します。
2. **PhoneLinkRedialer-Setup.exe** をダブルクリックします。
3. 「Windows によって PC が保護されました」と表示された場合は、［**詳細情報**］→［**実行**］を押します（このアプリはデジタル署名がないため表示されます）。
4. 確認画面で［はい］を押すとインストールされます。インストール先は `%LOCALAPPDATA%\Programs\PhoneLinkRedialer` です。
5. 完了するとデスクトップとスタートメニューに「スマホ連携リダイアラー」が作成されます。スタートメニューにはこの利用マニュアルも登録されます。

> ウイルス対策ソフトが警告を出す場合があります。これはアプリが他のアプリ（スマートフォン連携）を自動で操作するためです。配布元を確認のうえ、必要に応じて許可してください。

アンインストール

Windows の［設定］→［アプリ］→［インストールされているアプリ］で「スマホ連携リダイアラー」の［…］→［アンインストール］を選ぶか、スタートメニューの「スマホ連携リダイアラー のアンインストール」を実行します。設定・登録音声・ログを残すか削除するかを選べます。

5. 初期設定（最初に 1 回だけ）

自動モードでは、ボタン位置の記録は不要です。アプリを起動するだけで準備が整います。



図 1 ［発信・切断の設定］タブ（自動モード）

1. **アプリを起動**　スマホ連携リダイアラーを起動します。画面上部に「スマートフォン連携を準備中」と表示され、スマートフォン連携が自動で起動します（数秒〜数十秒かかります）。

2. **連携済みの場合**　スマートフォン連携は自動で最小化され、「準備完了」と表示されます。画面にはこのアプリだけが表示されます。これで準備は完了です。

3. **連携していない場合**　「スマートフォンとの連携が必要です」と表示され、スマートフォン連携が前面に表示されます。案内に従ってスマートフォン（iPhone または Android）を連携してください。連携が完了すると、スマートフォン連携は自動で最小化され、このアプリが前面に戻ります。

4. **確認（任意）**　［発信・切断の設定］タブの［自動検出テスト（発信しません）］で「OK」と表示されることを確認できます。［テスト発信（1 回）］→［テスト切断］で、自分の別の電話への発信・切断も確認できます。



図 1-2　スマートフォンが連携されていないときの表示

> **「通話ウィンドウを自動で最小化する」について**
> 発信すると、スマートフォン連携の小さな通話ウィンドウ（「モバイル デバイスでの通話」）が画面に出ます。このオプションがオンなら自動で最小化し、相手が応答したときに前面に表示します。

自動モードが使えないとき（記録方式）

スマートフォン連携の更新などで自動検出テストが NG になる場合は、「操作方式」を**記録方式（従来）**に切り替えます。番号入力欄・発信ボタン・切断ボタンを、［記録］（3 秒のカウントダウン中にマウスを合わせる）または［一覧］（画面部品の一覧から選ぶ）で設定してください。



図 2　記録方式の設定画面

6. リダイアルの使い方



図 3　［発信］タブ（リダイアル中。登録先の名前・番号は一例です）

1. 他のアプリの音（動画・音楽など）を止め、スマートフォン連携を起動しておきます（最小化で構いません）。
2. ［発信］タブの「発信先」に電話番号を入力します（ハイフンや全角数字は自動で除去・変換されます）。登録先から［選択］で入れることもできます。
3. ［**リダイアル開始**］を押します（登録先の［発信］ボタンなら、選択と開始を一度に行います）。
4. 「状況」欄に、発信回数・話中の回数・アナウンスの回数・経過時間が表示されます。ログには 1 回ごとの判定結果が記録されます。
5. 相手が応答すると、リダイアルが自動で停止し、「つながりました！」画面と通知音でお知らせします。スマートフォン連携の通話ウィンドウ（ミュート・通話終了ボタン）が前面に表示されるので、**そのまま通話してください**。



図 4　相手が応答したときの表示

登録先（10 件）の使い方

- ［発信］タブの「登録先」で［編集］を押すと、10 件分の名前と電話番号を入力できます。入力したら［保存］を押します。
- 各行の［選択］で発信先に入れ、［発信］でそのままリダイアルを開始します。



図 5　登録先の編集

停止するには

- ［停止］ボタン、またはどの画面からでも Ctrl + Alt + S （緊急停止）。
- 停止しても通話は切断されません。必要に応じてスマートフォン連携で切断してください。
- 「最大発信回数」を設定しておくと、その回数で自動停止します。

アナウンスなのに「つながりました」と止まった場合

呼出音の後に流れる案内（例:「おかけになった電話は、ただいま…」）は、初期状態では「応答」と判定されることがあります。その場合はスマートフォン連携で切断したあと、［発信］タブ右下の「判定の修正」で名前を入力して［**直前の音声を登録**］を押し、もう一度［リダイアル開始］を押してください。次回からは同じ案内が流れると自動で再発信します。

7. 音声判定の確認と調整

受話音声モニターの見方

［発信］タブの「受話音声モニター」には、アプリが聞き取っている音がリアルタイムに表示されます。初回はテスト発信や手動発信をしながら、次の点を確認してください。

表示	確認ポイント
音量	呼出音や声が出ているときにメーターが動くこと。動かない場合は取得デバイスが違います（下記）。

種類	呼出音・話中音のときは「トーン」、人の声やアナウンスのときは「音声」、無音のときは「無音」。
周波数	日本の呼出音・話中音はおよそ 400Hz です。
トーン ON/OFF	話中音は約 0.5 秒 / 0.5 秒、呼出音は約 1 秒 / 2 秒と表示されます。
呼出音の回数	プルルルが鳴るたびに増えること。
登録音声との一致	登録音声と照合した結果（1.00 に近いほど一致）。



図 6　［音声判定］タブ

音声の取得元（出力デバイス）

初期値は「既定の通信デバイス」です。メーターが動かない場合は、［音声判定］タブでスマートフォン連携の通話音声が実際に出ているデバイス（ヘッドセットやスピーカー）を選んでください。

アナウンス音声の登録

［音声判定］タブの「いま流れている音声を登録」では、アナウンスが流れている最中（または流れた直後 15 秒以内）に名前を付けて［登録］を押すと、その音声を登録できます。登録した音声は一覧から削除できます。

呼出音の前の音声をアナウンスとみなす

NTT の混雑アナウンスは呼出音が鳴る前に流れるため、初期設定ではこれを自動的にアナウンスと判定します。相手先の自動音声応答（「お電話ありがとうございます」など）は通常呼出音の後に流れるため「応答（つながった）」と判定されます。もし相手につながったのに切断されてしまう場合は、このチェックを外し、アナウンスは音声登録で判定してください。

8. 設定項目の一覧

項目	初期値	説明
操作方式	自動	自動（スマートフォン連携を最小化したまま操作）、記録方式（記録したボタンを操作）、tel: リンクから選びます。
起動時にスマートフォン連携を起動・最小化	オン	アプリ起動時にスマートフォン連携を起動し、連携済みなら最小化します。未連携なら連携を促し、完了後に最小化します。
発信時にスマートフォン連携を最小化	オン	自動モードで、発信時にスマートフォン連携のウィンドウを最小化します。
通話ウィンドウを自動で最小化	オン	自動モードで、発信中の通話ウィンドウを最小化し、応答時に前面に表示します。
登録先	—	名前と電話番号を 10 件まで登録できます。
番号をキーボード入力で入れる（記録方式）	オフ	オンにすると、UI オートメーションで番号を設定する代わりに入力欄をクリックしてキー入力します。
キー入力の前に入力欄を消去	オン	キー入力の前に Ctrl+A → Backspace で前回の番号を消します。
番号を渡した後に発信ボタンを押す	オン	tel: リンクのとき、発信が自動で始まらなければ発信ボタンを押します。
切断方法	切断ボタンを押す	記録した切断ボタンを押します。キー操作、または両方も選べます。
座標クリック後にカーソルを戻す	オン	座標でクリックしたとき、マウスカーソルを元の位置に戻します。
切断後の再発信までの間隔	1.0 秒	切断してから次の発信までの待ち時間（最短 0.3 秒）。発信に失敗することがある場合は長くします。
最大発信回数	0（無制限）	この回数に達すると自動停止します。
無反応で切断	15 秒	発信後、呼出音も音声も聞こえないまま経過したら切断して再発信します。0 で無効。
呼出中のまま切断	0（しない）	呼出音が鳴り続けて応答がないとき、この秒数で切断して再発信します。
切断ボタンが消えたら即再発信	オン	通話を終了するボタンが画面から消えたら、通話終了とみなして再発信します。
つながったら通知音	オン	応答時に Windows の通知音を 3 回鳴らします。
呼出音前の音声をアナウンス扱い	オン	「7. 音声判定の確認と調整」参照。

連続音も再発信	オン	4 秒以上途切れないトーンを異常音とみなして再発信します。
無音とみなす音量	-50 dBFS	これより小さい音は無音とみなします。雑音で「音声」と誤判定される場合は -45 などに上げます。
トーン判定の集中度	0.55	呼出音が「音声」と表示される場合は下げ、声が「トーン」と表示される場合は上げます。
音声ありと判定する長さ	1.0 秒	この長さ以上の音声で応答／アナウンスを判定します。
登録音声の一致しきい値	0.80	登録音声と同じと判定する基準。一致しにくい場合は 0.75 程度に下げます。

9. 困ったときは

症状	対処
「スマートフォン連携: 見つかりません」	スマートフォン連携を起動して表示してください。それでも表示が変わらない場合は「対象ウィンドウ」を記録し直してください。
「UI自動操作: エラー」	PowerShell の実行が制限されている可能性があります（表示にマウスを重ねると理由が出ます）。自動モードは使えないため、記録方式（座標）で設定し、記録後はスマートフォン連携のウィンドウを動かさないでください。
起動時に「スマートフォン連携を確認できません」	スタートメニューからスマートフォン連携を起動し、［再確認］を押してください。
自動検出テストが NG	スマートフォン連携を起動し、スマートフォンが接続済みか確認してください。スマートフォン連携の更新で画面の作りが変わった場合は、記録方式に切り替えてください。
「番号を正しく入力できませんでした」	スマートフォン連携を一度表示して［通話］画面を開き、再度開始してください。
番号が入らない（記録方式）	「番号をキーボード入力で入れる」をオンにしてください。番号入力欄を記録し直す、または［一覧］から選び直すのも有効です。
発信されない	発信ボタンを記録し直すか［一覧］から選び直してください。スマートフォン連携が［通話］画面になっているか、スマートフォンが接続済みかも確認してください。
話中なのに再発信しない	受話音声モニターで音量メーターが動くか確認し、動かなければ出力デバイスを選び直してください。「種類」が「トーン」にならない場合は「トーン判定の集中度」を 0.45 程度に下げてください。
呼出中なのにすぐ切断される	ログの理由を確認してください。「通話画面（切断ボタン）が消えた」の場合は、切断ボタンを呼出中の画面で記録し直すか、「切断ボタンが消えたら即再発信」をオフにしてください。

アナウンスで止まってしまう	「6. リダイアルの使い方」の「直前の音声を登録」を行ってください。
相手が出たのに切断された	相手の声が呼出音の前に流れた可能性があります。［音声判定］タブで「呼出音の前の音声はアナウンス」をオフにし、アナウンスは音声登録で判定してください。
スマートフォン連携の更新後に動かない	画面のボタン名が変わった可能性があります。番号入力欄・発信ボタン・切断ボタンを記録し直してください。
アプリが起動しない	Microsoft Edge WebView2 ランタイムをインストールしてください。セキュリティソフトがブロックしていないかも確認してください。
緊急停止キーが効かない	他のアプリが Ctrl + Alt + S を使用している可能性があります（起動時のログに表示されます）。アプリの［停止］ボタンを使ってください。

10. ファイルの保存場所

内容	場所
アプリ本体	`%LOCALAPPDATA%\Programs\PhoneLinkRedialer\`
設定・登録音声	`%APPDATA%\PhoneLinkRedialer\config.json`
ログ（日別）	`%APPDATA%\PhoneLinkRedialer\logs\`（［発信］タブの［ログ・設定フォルダを開く］から開けます）
UI 自動操作の補助スクリプト	`%APPDATA%\PhoneLinkRedialer\uia_helper.ps1`（起動時に自動作成）

「スマートフォン連携」（Phone Link）は Microsoft Corporation の製品です。本アプリは Microsoft Corporation とは関係のない個人用ツールです。